

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 452 号	氏名	中村 寛
学位審査委員	主 査	中尾 一彦	
	副 査	松山 俊文	
	副 査	青柳 潔	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、インターフェロン(IFN)治療に関連して発症した1型糖尿病患者の臨床的特徴について検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 日本糖尿病学会認定教育施設(48施設)の症例調査票に基づく62例と本邦症例報告論文29例、合計91症例(男性48例、女性43例)について、統計学的手法を用いて解析を行っており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 IFN治療関連1型糖尿病の有病率は0.34%と、一般の1型糖尿病有病率約0.03%の10倍であることが明らかとなった。多くは急性発症様式を示し、PegIFN+Ribavirin療法群は治療早期から発症する傾向にあった。発症時の血清抗Glutamic Acid Decarboxylase(GAD)抗体は陽性率、抗体価共に高いことから、本症の発症予知マーカーとしての有用性が示唆された。HLA-DR解析では、DR13が健常対象群、一般の1型糖尿病群に比して有意に高率であった。本研究成果は、IFN治療関連1型糖尿病並びに1型糖尿病の発症機序解明に繋がる可能性が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はIFN治療関連1型糖尿病の病態解明、発症予知に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			